平成２８年ホヤ類調査結果速報　Ｎｏ．１

平成 28 年７月８日
北海道立総合研究機構函館水産試験場
栽培水産試験場

※この速報は函館水試ＨＰでも見ることができます。
【アドレス：http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/】

６月２８日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

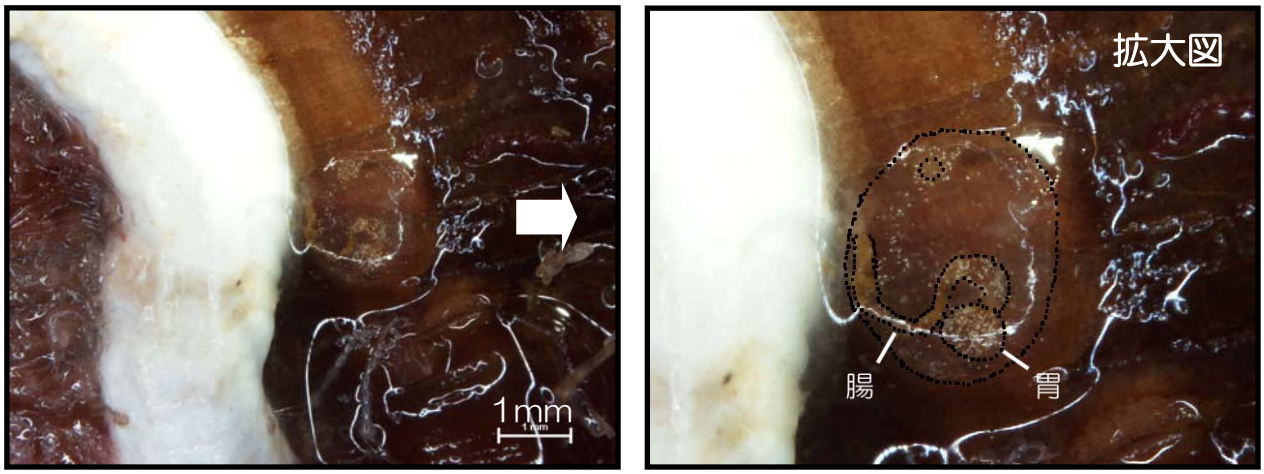
- 耳吊りホタテガイ上に、多数のヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図１）。サイズは小さく、まだ、肉眼では識別できない個体がほとんどです（図 1、２）。

- 付着個体数はホタテガイ 1 枚あたり 20.3 個体で、過去のデータと比較して、多い状況です（表１、図３）。

- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生も確認されています（図 4－1）。水温の鉛直分布から、深度 20ｍ以浅で、ヨーロッパザラボヤの産卵が本格化しているとみられます（図 4－2）。

- 今年は、ヨーロッパザラボヤの付着数の増加が早く、付着重量の増加も早くなることが懸念されます（図 3）。今後の水産試験場や水産技術普及指導所の調査結果に注意してください。

図１　ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ稚ボヤ　平成 28 年６月 28 日　八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部　金森・吉田
TEL：0138-83-2893FAX：0138-83-2849

１：耳吊りホタテ貝付着物調査

［調査月日：６月 28 日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層　各５枚］

ホタテガイを上層、中層、下層ごとに５枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました。多数のヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図 1、表 1）。ヨーロッパザラボヤの平均個体数はホタテガイ 1 枚あたり 20.3 個体、平均サイズは 1.7mm と微小な個体が中心です（図 1、2）。今年は、過去５年のデータと比較して、個体数の増加が早いと見られ、付着重量の増加も早まることが懸念されます（図 3）。

表１　付着生物調査結果（八雲地区：平成 28 年６月 28 日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	4.2g	3.3g	1.6g	3.0g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満
その他	4.2g	3.3g	1.6g	3.0g
ヨーロッパザラボヤ個体数	16.8個体	22.8個体	21.4個体	20.3個体
平成27年6月（H27.6.15）の個体数	0.0個体	0.0個体	0.6個体	0.2個体
平成26年6月（H26.6.23）の個体数	1.6個体	9.0個体	8.4個体	6.3個体
平成25年6月（H25.6.10）の個体数	0.0個体	0.0個体	0.0個体	0.0個体

図 2.ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成 28 年６月 28 日）

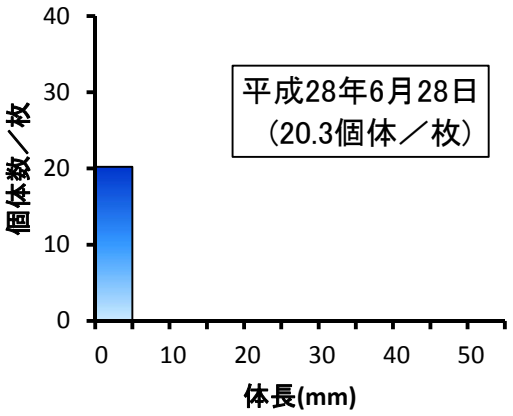
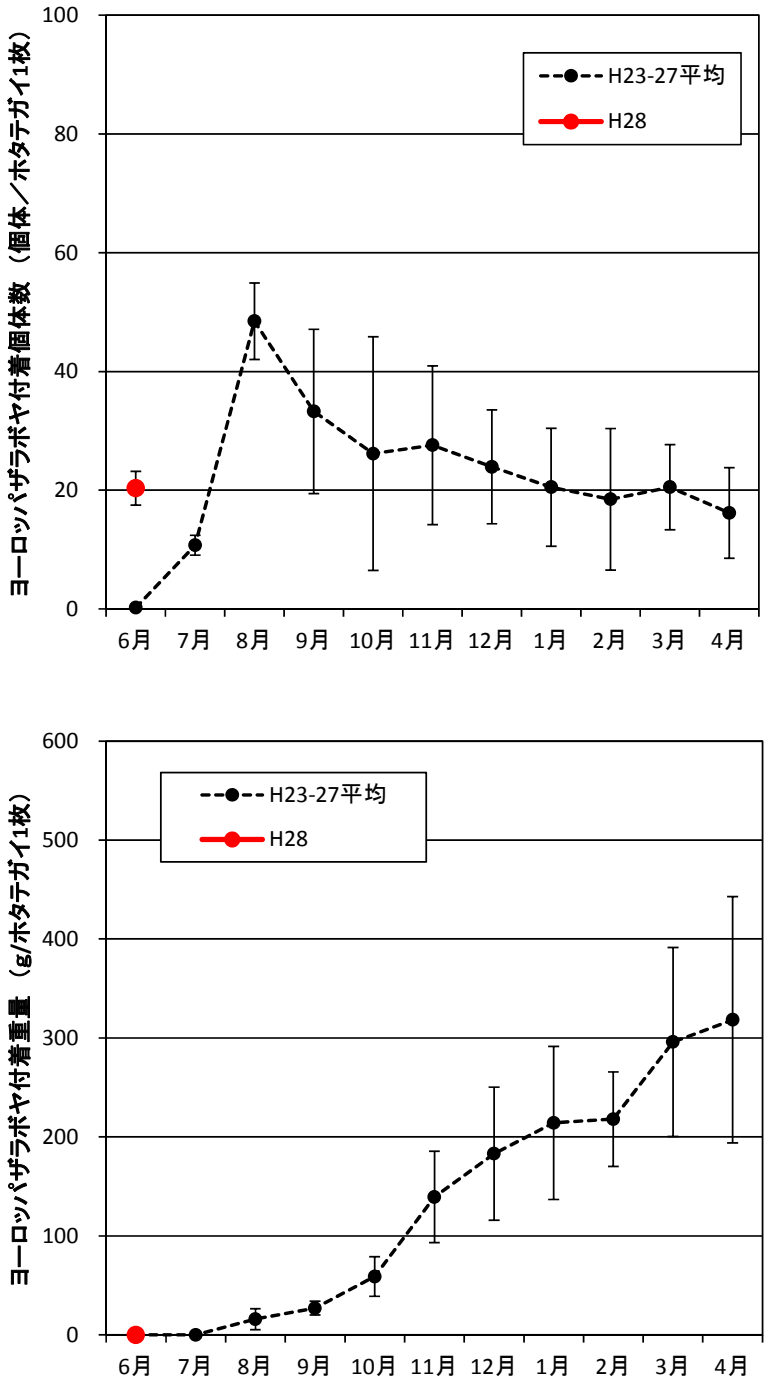


図３ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化
下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化
各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。H23～27 年のデータでは、噴火湾でのヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は 7～9 月が中心となっています。付着重量は 10 月～翌 2 月にかけて急激に増加します。今年度は、6月末の時点で、過去５ヶ年の７月の平均個体数を上回っており、付着が早く始まったと考えられます。付着が早い場合、重量の増加も早くなります。今後の付着状況の変化に注意が必要です。

２：浮遊幼生調査結果

２－１．八雲地区（八雲沖３マイル定点）調査結果

［調査月日：平成 28 年６月 28 日、調査場所：八雲沖水深 17m、水深 32m、水深 40m］

ヨーロッパザラボヤの幼生（図４－１）は３地点の平均で海水 1t あたり 13.6 個体でした（図 ４－1）。昨年、栽培水産試験場が実施した室内試験によって、水温上昇期におけるヨーロッパザラボヤの産卵は 13℃から始まることが示されています。６月の八雲沖の水温を見ると深度 20ｍ以浅は 13℃以上となっており、ヨーロッパザラボヤの産卵が本格化していると考えられます（図 4-2）。

図４－1.ホヤ幼生出現状況の経年比較（八雲地区）

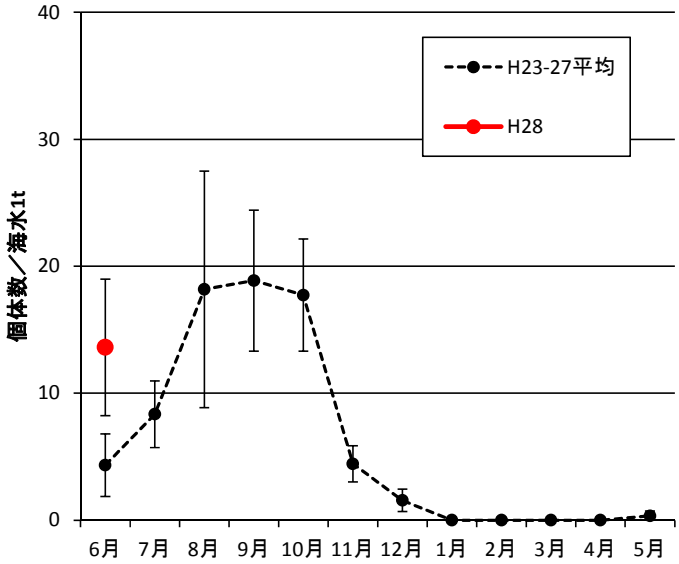
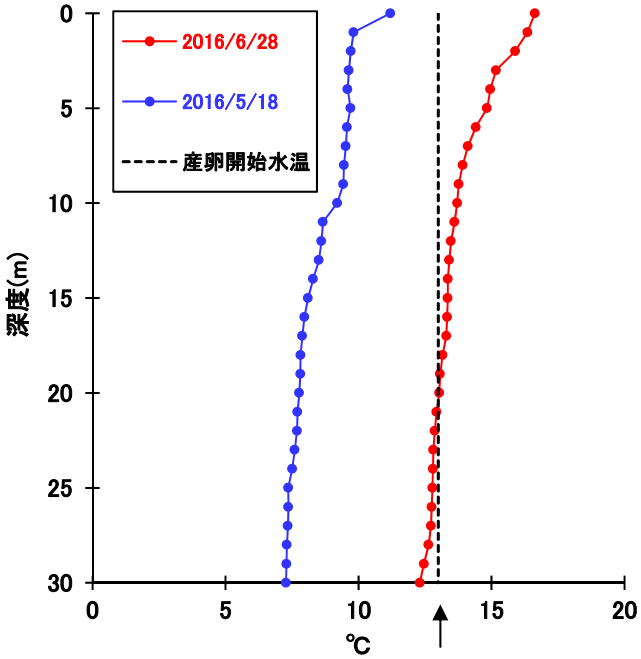


図４－2.八雲沖３マイル定点の水温の鉛直分布（平成 28 年５月 18 日、６月 28 日）



水温上昇期におけるヨーロッパザラボヤの産卵開始水温（13℃）